題林叢句集　冬

へ 5
4130
4

門へ刻5
4130
巻4-4

俳諧正風歌林農刀集

冬之部目録

神無月一　小春一　炎の子二　煩悩二
切二　巨燵三　火桶三　埋火四
炭四　炭竈四　樽五　連歌忌五
十夜六　酒令搏六　夷搏七
神の留守七　時雨七　風八　茶の花八
山茶花九　帰雁九　柴垣九　大根引十
麥蒔十　蕎麦刈十　枯尾花十　葱十
干菜十一　枯柳十一　柴刈十一　数珠繰十三

落葉 十三
浮寐鳥 十五
木兎 十六
冬籠 十八
吹草祭 十九
蒲団 廿一
布子 廿二
鞦韆 廿四
神樂 廿五
冬椿 廿七
草枯 十三
鴛鴦 十五
鷹狩 十七
冬至 十八
南の市 二十
頭巾 廿一
髮置 廿三
夜興引 廿四
水仙 廿六
拾花 廿七
冬木立 十四
鴨 十五
暖鳥 十七
雪月 十九
冬至 二十
足袋 廿一
袴著 廿三
現代寺 廿五
寒菊 廿六
冬牡丹 廿八
衡 十四
鶺鴒 十六
雪帝 十七
紙見世 十九
紙子 二十
衾 廿二
大師講 廿三
暦賣 廿五
冬至梅 廿六
霜 廿八
初雪 廿九
初氷 三十一
氷柱 三十二
寒中 三十四
生流亂 三十五
鯨突 三十七
雪車 三十八
冴 四十
節季 四十二
寒念佛 四十三
雪 廿九
氷 三十一
鋳る 三十三
湯婆 三十四
氷魚 三十六
納豆 三十七
師走 三十九
冬籠 四十一
煤掃 四十二
年木樵 四十三
吹雪 三十
霰 三十二
凍 三十三
藥喰 三十五
河豚 三十六
荳漬 三十七
寒入 三十九
臘八 四十一
餅搗 四十二
豆打 四十四
雪見 三十
霙 三十二
朕 三十四
坊 三十五
鱈 三十六
搗 三十八
寒 三十九
年の市 四十三
厄落 四十四

厄拂 四十五　岡見 四十五　古暦 四十五　札納 四十六
紅花蒔 四十六　室咲 四十七　寒梅 四十七　年忘 四十七
炎待 四十八　衣配 四十八　年の暮 四十九　年内立春 四十九
大晦日 五十

俳諧正風歌林農句集

為誰庵田撰

許賀

里行くや山の中の十沖の月　松竹
市中の人の住ひや冬の神　波路
かつぎ一所の結束ゆるむ日　梅賀
あの年の人の名ゆゑ一沖の月　枝友
紫の花林をまき多一沖の月　竹夢
今年の冬の日や一十かぐつの月　洗蒙
明日は冬の日を待つや沖の月　山抵
馬通ふ人の足音冬の日の月　光年

小夜

用ありて出でたる人の帰りて
神無月の末つ方なれば
十月やみぞれを通す造り花　松濤
十月十日過ぎの夜
所々に咲きのこる小春の花　丁知　由樊
ちるまでの花の名残り
物思ふ菊の花　移明
海辺の家　物ゆかしげなる菊の花　竟友
庭掃いて
鶏頭の枯れ残りの小春の風　子英
紫陽花　枯れ残りの小春の風　守一
紫陽花を刈りて
菜畑の小春の風　松謙　三沼

夾の子

縁提灯
汐ひいまでの
紺の舟
答ふ
旅人の
焉帽子
何ぞ
寄せ
松影の
かくれ
富士の
一見
南汀
春望
一具
波路
切南
拘岐
閑雅
竟友
一具
由樊

爐開

爐開や汎にいまたゝよとさへきく　三佰
ろひらきや外山の酒乃都ゝ出る　洗紫
ろびらきや折柳雪鋼のうち　衣麥
炉びらきや酒るしきあて交出家　完鴎
爐開や年元ほの秋人元ゝし　珠弓
ろびらきや酒はまた日の本ゝ代　家雄
炉開や旅もさ白きの声いさまし　一碩
爐びらきや常の笄にひゐ藍　杉曉
爐開ら紅や晴く隣さ人ゝ聞く　拙誅
口切やりの苔の下で羽あ我人新　花外
口切や云葉まくすいふけるく　伴月

口切

波花津や口切時の波かへく　一具
口切やさらしの荻を隣にて呑了　楽斎
口切や人ゝまつかうち上座する　尺寿
口切て我の在るのよく嫌ゝ乱　抱叔
口切や家内て出る客ちのも　慶柳
口切を序よしの女子坊かな　涼花
口切や雨具用意ましくそあるる　拙誅

巨燵

飼猫や巨燵ちゃめわり錦の上　乙良
巨燵主子のゝ寄せ抱むらる代　知遠
月待ちて夜食の頃ててほ燵代　文琳
只ゝ我居ぬと人来る出で何哉　柳女

火桶

[illegible] 抱叔
十分に稼をして来る火燵に 戸寿
炉炉のうしろにてゐるこころのまま 殊ち
起き抜て時代のうしろに巨燵代 翠意
巨燵のうしろ 老の痛き腰まの腰 老友
燒燈 世に抜のうしろにてくこころ代 由接
[illegible] 抱く桶代 對南
合宿のむきくよりあるに火桶のまま 清月
座よりあく抱なるに桶代 三四
もれいたてすむものひとり代 抱叔
[illegible] 深花

埋火

[illegible] 老の
埋火や 枕嘯と白人枕 由誓
埋火や 嘯すりうるれく新 狂郎
うつむきや 白人鉢の 其山
ほこすや 炉新よりき居る新 春世
うつみ火よ 和一粒のうつる 波鶴
埋火や 咳そ二度見て 圓西
埋火や 古帰る我枕うつみ 狂之
うつむや 寒見 月夕
埋火に 秋の月 老友

炭

炭竈

[illegible] 白起
[illegible] 拙誠
[illegible] 三太
[illegible] 抱叔
[illegible] 閑雅
[illegible] 光乗
[illegible] 一之
[illegible] 碧海
[illegible] 曉山
[illegible] 完鵬

楷

[illegible] 春峨
[illegible] 衣麥
[illegible] 花外
[illegible] 兼香
[illegible] 卜子
[illegible] 拙誠
[illegible] 涼巷
[illegible] 中楚
[illegible] 丁知
[illegible] 一具
[illegible] 泰雄

橋をゆく人の足もとや櫓の音　清晃
かすみそめる青の櫓末ゑ　對雨
新入の新子をやむ櫓あのち　竹風
おそきを櫓こぐ里や家の数　於湖
櫓華て志のけるゆくや狐罠　一水
河ゑ八軒ぬうちと櫓をとゞめ　於曉
櫓ゑ出れるうきくに松葉ゑ　天真
言葉甲士の書ゑ志る櫓ゑ変　桐古
座造ゑ年ゑ昭の元人や櫓明や　可菊
達磨忌や蓮ゑ焼る乃掃除　九鈴
達磨忌や雨ゑうつる新ゑ里

達磨忌

達磨忌や日暮る庭を掃き除め　永丈
あるものゑや草鞋ゑ元ゑ入口　草雨
元ゑ忌や松かけハ又松の風　月夕
達ゑ忌や山ゑ元ゑ数茶大根　球弓
達ゑ忌の朝やにきる茶乃俵　老年
達磨忌や行事まく居ゑ上　拙詠
湯ゑ忌ゑ元一度行つまる十夜ゑ　清甫
於て別ゑ人の出撃る十夜ゑ　涼芝
ゑ忌ゑ新ゑ寺や十夜の灯　秋瓜
苦ゑ忌ゑ元行る十夜ゑ　竟友
石湯ゑ元そんゑの元ゑ十夜ゑ　波鷗

十夜

人まねに夜を持し十夜の寺　瓦村
ひとしれず泣て居たまふぬ十夜哉　由誓

御命講

月さへの里もわかず御仏や御命講　挹翠
御命講や寺紙多く弘ちらる　對甫
珠数もちて取手の深し御命講　三浪
居まわり様も暮ぬもし御命講　竹夢
御命講や青くつめたき丈帰る　嘯山

御取越

吉野さへ猿も来る人を来て御取越　挹琢
来さて新を絶しむ事に御命講　由甚
路続きて町の家まで御名とし　挹叔
見えたまふ殺人の寒さおどや御取越　嵐甫

年の夜は葉も音泊や浅取越し　沐芳
事もくる内夕色やお取越し　對甫
軒下の宿の人を行あり御取越　眠月
峯深の中に寝返る御取越　菜居
年来る人の心も雨か取越し　蘇里
挑灯の先へ一家や御取越し　瓦村

夷講

夷講亭を添へ寝うら哉　杉曉
市店で髪ともぬる拍子講　抱叔
婿も講居自て居たまへ　守一
深山中水も及ぎけり夷講　象樹
人声の四つの宿や夷講　、

一杯の酒を傳ふ人やうの酒　波路
ひとりとなれば八せ　極子　播州南
義をみて神の為に　抱叔
おろそかに思ひもせねど神の為　亜女
為ならば　月をかさねて神の森　秋川
他の為ならば　月をかさねて神の為　冬年
華山の絶ちゆるむ時なれ　一具
時雨もるまとへ　華山の雪　乙良
拾ひもそ又後ずす時なれ　清真
見すもるや時雨る　姫路義樹子　可都彦

時雨

川ひとつ渡を葉をつむ時雨　杉暁
引人の舟へ中ゆく　鶴鈴
夕時雨上の鳥の鳴き　雲流
一ちまを通して掃ヤ寺の庭　保水
郭の雨れ　雨れ　殊丸
刈ひとの葉　雨れ　文舟
郭の葉　雨れ　秋瓜
人絶ちまを　時雨　龍友
ちのちしや　時雨　一具
木枯やちまを　清甫

風

風よ人の為ある立場の郭

茶の花

[illegible]

山茶花

[illegible]

帰花

二人居て物語する夜や冷まじき　松汁
芝の海老とる網見るや冬の月　左村
牡の花や曙くれて帰る花　東洲
人ありて物語する夜の柳かな　珠弓
冷まじき夢の覚めて冷まじ　北叔
見て物書く夜の冷まじ　完鶴
北の方くれて来の居て京れば冷まじ　汁夢
冷まじき夜の一時や冬の花　移曉
冬のしら雨降るまで帰る　左村
枇杷の葉人の寄るちまたの孔　樹石
枝ゆ花ちらで平家や枇杷の葉　中老

枇杷の花

青苔踏みて苔咲かるや枇杷の花　乾遊
二三日も花咲かるや枇杷の葉　冨采
葉の刻ゆ実ちらでちひさし枇杷の葉　嘆山
咲くあと実ゆ実ちるさまや枇杷の葉　田子
山寺や人来ぬ日ひとり花はなる　龜友
実に枯れし一枝見ます枇杷の葉　祐之
実に枯れの葉をひらのきの孔　天根孔　對甫
引て来て又いけて置く大根哉　涼岳
裏実戦越て枯れる大根引　珠弓
時雨の中のあるや大根引　一線
枯るるや大根抜きて引のこす　花外

麥蒔

雨九月より麥の大根の引のこし　丁知
まくてけつて大根引出さるる　庫角
乃手洗のうるをを大根の洗ひ　清耳九
麥むをとさて麥の洗ひの大根引　由整
麥まくや雲天ちらつおりて　赤訓
麥蒔や大きて泥まて越る舟　寿川
麥海紅や大きて泥まて越る舟　三四
一二枚麥蒔きの山乃後　竜流
麥まくや四山をうつ雪の朱し　清耳九
むの紅葉年一年前をうつ住寺　三泥
麥蒔や岩の寺をを上をを　柘汁

蕎麥刈

蕎麥刈のをを小窓へを入をを　尾村
刈蕎麥ををををををの老て麥の　珠弓
をを刈一切のをを日をを胡麻　秋瓜
柘をを刈十山ちらしまひを掃ひ　戸寿
刈ちを八男の蕎麥の白ひの那　苑外
蕎麥刈のをををを山へ鳴り年　白起
夜打をを山や強しををの柘尾苑　一具
角年一柘尾苑の山の月ら　苑外
ちをををを尾苑や鳴りをく　知遠
暮るをを柘る麥刈尾をを　秋瓜
柘て牧をを麥刈尾苑　寺月

葱

冬十

[illegible]川を[illegible]して[illegible]　孫丘
[illegible]人の[illegible]　[illegible]文
[illegible]　[illegible]
[illegible]　白起
[illegible]　三沼
[illegible]　豊里
[illegible]　[illegible]
[illegible]　竹夢
[illegible]　九鈴
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]

干菜

干菜のこと[illegible]　完酷
[illegible]　抱叔
[illegible]　竹美
[illegible]　如遠
[illegible]　抱叔
[illegible]　[illegible]川
[illegible]　[illegible]面
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]女
[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]文

柘榴

[illegible]

散紅葉

[illegible]

落葉

[illegible]

落葉ちく人よりおもへや里乃僧　尾村
ひとつのみ浦に吹あまる落葉かな　清甫
吹たまる落葉や宵に高る山路かな　一瓜
うちつけてあとから人の落葉かな　守一
鐘撞のこの紀ふせて落葉かな　稔市
眼まで折て落葉が落葉かな　南汀
大落葉何に来しと問れける　由誓
草の戸や庵のすつのまき　鶏乃贄　祐之

草枯

草枯るる畑の光をゆく白帆かな　抱叔
三日月の細さや野より我家をも　薬摘　左秀
草枯や東海道を急ぐ女　白匙

草の緒で結びつく雨のあとの空　喂山
兎とも見れぬ牛や蟹の枯尾花　象椎
木枯らしまた枯草や山乃宿　卜早
草の枯れゆく花を素に青み来　以兄
三日の紙や古郷一目に見る木も淋し　花外
草枯やよそよそしき庵のうち　由誓
いく夜の行たる冬木立　抱叔

冬木立

大きな私の詠めとなる冬木立　如遠
冬木立地に涯のそ風の音なり　豊里
寂しさまきの冬木かな　亮采
山茶の冬木立　一匙

千鳥

冬来ても沖浪なし濱千鳥　立圃

渡りゆく千鳥ちれて冬来たる　節之

橋や水おとまされて淋し冬来たる　梅俊

見えぬ夜のちどりさえしや冬の月　月夕

ひと声に河原来たる冬の千鳥かな　切甫

日の入の名残しく鳴く千鳥かな　閑雅

杉の木にかゝる月の浦千鳥や冬来たる　田子

嵐の山の千鳥は河原の冬来たる　象雄

梅売て畑中千鳥や鴨かちち　一頂

川岸の千鳥こゑも千鳥の乱れ　南枝

小夜千鳥啼や何処の山の奥　象堆

浮寝鳥

静かなる水の上の浮寝鳥まよ　乙良

夜も更て鳴く浮寝鳥の声と　御風

河岸にうき寝の鳥や寒く浮寝鳥　杉曉

ちらくと浮寝鳥や村ちかし　一綠

遠き野の静かさや浮寝鳥　苑外

浮寝鳥や鳴く千鳥かな　稔市

よるや若葉より浮寝鳥　抱琳

来て見よ月や浮寝鳥　杉曉

浮寝鳥池の夜寒の寒さかな　素流

ゆられ揺れ浮寝鳥　鶴歩

そのまゝ浮寝鳥の夜寒かな　波鴎

鴛鴦

芭外

守一

抱舟

祖卿

芭外

風村

素流

鴨

涼菫

白起

立甫

乾友

鶺鴒

丁紅

第之

洗葉

完岳

傍月

梅賀

未文

珠弓

傍月

竹夢

楽雷

水光

蒼海の古はやゝ動きて水光山樹石
古代毎年春来て人鶴鶴冨米
歴々元一寸来たりて三十三戈寒流
世代をよろこび高々鶴鶴移曉
ひとり社を立てる鶴鶴光友
人の孫を鎖す門や水光の鳴白鷺
ひゝ鶴入て水光や水もゝ苔雨
水光や草もゝたゝ山山象雄
吹風に光る冨や水光の夢殊丹
水光の鶴相去来ゝ月碧海
鳴ゝ鶴のみ見て水光の夢閑雅

冬夫

鷺ノ特

やゝ高き木の枝に新しき鷺の水光下平
流れ寄るまゝ山の道や水光の舞移曉
水光の巳ゝ鶴すして帰ゝ高ゝ象雄
人招く鶴乃ゝ鷺郎ゝ鳴瓦村
鷺特人冨を見ゝ高ゝ尾冨雅
鷺特や高ゝ鶴数ゝ人ゝ可蕭
川鷺郎や高ゝ衣ゝ代ゝ豊冨
鷺特や川越て鶴の高ゝ水丈
ゝ高ゝる鷺の尾ゝ代西日ゝ三沉
鷺ゝ高や黄ゝ高の家和尚半月
鷺特や光鶴ゝ高ゝ高ゝ冨三四

暖鶯

冬部

抱叔

知遠

梅叟

卜早

由蕉

波鴎

一水

知遠

草雨

冬部

陳弓

象雄

卜早

由蕉

子英

秋瓜

不醒

老年

一具

蕉里

抱叔

神迎

高野まいりの人を送る　光雲
いとかなしきもてなしの分るゝ人の心　史碧
神を入れん為に戒め給ふ　瓦村
松よりも高しと神迎　冬花
神迎ふ日の夜しく山路かな　花外
そるつゝ星の光や神迎　冰花
ひとり残る物を思ひて神迎　双谷
為ならぬ人の枕を思ひて神迎　衣麦
蓬生に人の来ぬ日神迎　菓風
神迎稽古米年数ふる　由碧

霜月

霜月や直乃先の寺の鐘　完岩
霜月や寺の門とまりの人の家　犀陽
霜月や寺の門を出て山の月　未佛
霜月や鼎茶寄る所の雪　閑雅
霜月や石の上の水に芦の穂　梅賀
霜月や里を出つゝ京の月　瓦村
一夜月や人の住家を美くし　隣弓
寺つゝきの月や漁る屋のうち　眉青
霜月や坊のあまくなる細の家　牧友
一夜月十禅寺の夏とる米切る　卜早
霜月や鳥のあまくなる里の家　言山

新乙世　豊里

新乙世や浮世を四人とすまし　抱林

年見きの心さ新乙世の形、

かけうせやしの新一家　閑雅

夜ふかやうしろ人乃中　蒙香

百万や新乙世の人通す　竹夢

新見世や寒の人の月竹のうつる　芝雨

時乙掃　乙世華まつ　尾村

定すや一供抱ひ寒の乙　抱叔

冨士や吹華寒も新乙、

門はくやふかと乙世る家　白起

吹草祭

酉の市

酉の市　花外

酉の市吹草まつの宮の宮　柳俊

宮の宮をまつの吹草寒の筆　芝雨

四月酉の市　功甫

宮の宮一酉の市　波陶

連を待初の宮や酉の市、

宮の宮の人の宮洗て酉の宮　倭月

力なる人の宮見の宮や酉の市　象雄

吹踏をつて酉乃いち　蒙香

宮の宮の拍子おそ一酉の市　季山

抜打て乃宮の宮　祖柳

冬至

紙子

蕉園

頭巾

来る山を無精の猪や坊主かな　清再光
ふところの銭引出してる頭巾かな　象雄
手に提て茶屋を出て行頭巾かな　半月
夕暮の人何事よ頭巾かな　珠弓
出る店に頭巾かぶるや寒さかな　杉暁
おのつから手に取る頭巾の寒さかな　等雨
提て子や御嬉しかる頭巾哉　一丸
是を其親の異なるをつむるもの哉　象雄
何なりと見て来る頭巾の秋哉　由誓

足袋

笑ひ語る時のつら足袋を履ぬかな　珠弓
手さくりに残る足袋を知る旅寝かな　龍文
川添や足袋かけて鳴千鳥哉　對甫
来りて足袋買ふて行や山家哉　豊里
雪ふりし時たもとの其の足袋　一丸
新らしき足袋さし足く君が寿かな　象雄

衾

常ならず旅寝の明て衾かな　祖郷
行灯の火の色て聞る衾の寒哉　象雄
森深き化人の寝けり常衾　夢遊
若き夜の雨をとる衾の置哉　楽富
笛吹や家や衾を跡にまし　葉香
ひとく人ままて帯て待けるかな　卯甫
老ぬれは遠の床に着る衾かな　白起

布子

水鳥たちのうかれ出るまのうれ　杉曉
紙衾つゝひ年嵐の業なれる　篠風
たゞ我世をや祈てつゝみ紙衾　由藝
遊てなれ慰へ法ゝて市をたゝ朱雀　月夕
たゝて慰へ法ゝて市をたゝ朱雀　蘭風
扶ゝ童れ遊通ふまるぬの業　象堆
布子ゝ先きたゝ世布衾　衣麥
布子ゝ靜ゝ相ゝたゝつゝ　倭月
ゝたゝ慰へ法ゝ一番の布衾　一頃
きたゝ扶ゝ祈ゝまるぬれ衾　宗雅
ゆれるきたゝ向たる日乾　眉青

髮屋

髮おゆや江戸屋ゝ京荒ゝ　山鶯
かゝ髮ゝれ一姫ゝ髮ゝ　梅笑
うゝみゝおゆゝ扶の長ゝ　永丈
髮ゝ髮ゝ髮ゝ向ゝ髮ゝ　波紫
髮ゝおゆゝ日ゝ一昨ゝ　春世
かゝゝおゆゝ小袖ゝ洗ゝ一ゝ　曙山
ゝゝおゆゝ髮ゝ遠ゝ　祐之

袴著

髮ゝ紋ゝ上著ゝ紋ゝ　立
袴ゝ長ゝ母ゝ長ゝ　三沼
ゝゝゝゝ親ゝ人ゝ　拙珠

大師講

[illegible] 功甫
[illegible] 一水
[illegible] 閑雅
[illegible] 象堆
[illegible] 對甫
[illegible] 草雨
[illegible] 杉曉
[illegible] 洗紫
[illegible] 夢遊
[illegible] 象堆
[illegible] 完鳴

師走

[illegible] 師走 天真
[illegible] 大師講 菜花
[illegible] 大師講 蒙吾
[illegible] 波酌
[illegible] 抱叔
[illegible] 可蕃
[illegible] 完友
[illegible] 不確
[illegible] 嘆山
[illegible] 波同
[illegible] 師走 由誓

夜無引　抱叔
傑月　象堆
完岌　吉世
清南　瓦村
花外　拙珠
工　由碧

鋼代寺　鬼丈
碧海　象堆
樹石　宋雅
竹巷　傑月
校友　祖卿
山外　瓦村

曆賣

冬至

拙誠
完路
三四
保水
嚶山
抱林
由藝
丁知
涼花
可簫
花外

神楽

完路
菜石
清丹花
象雄
丁知
一頃
可簫
瑞乃
菜香
象雄
杉曉

水仙

寒菊

[illegible] 對甫
[illegible] 子蓉
[illegible] 白紀
[illegible] 於舟
[illegible] 珠弓
[illegible] 角
[illegible] 西疇
[illegible] 苑外
[illegible] 嘯山
[illegible] 春世
[illegible] 尾村

冬至梅

[illegible] 保月
[illegible] 樂吉
[illegible] 春山
[illegible] 清甫
[illegible] 朱丈
[illegible] 苑友
[illegible] 雲磐
[illegible] 珠弓
[illegible] 清甫
[illegible] 禾丈
[illegible] 公紀

冬椿

梅花

[illegible] 三沢
[illegible] 李山
[illegible] 洗紫
[illegible] 乾丈
[illegible] 椿祐之
[illegible] 高村
[illegible] 清甫
[illegible] 梅裁祐之
[illegible] 梅代 於獅
[illegible] 梅代
[illegible] 澤月

冬牡丹

[illegible] 乾丈
[illegible] 友
[illegible] 山莊
[illegible] 完岳
[illegible] 涼谷
[illegible] 乾友
[illegible] 山歌
[illegible] 春世
[illegible] 花外
[illegible] 波路
[illegible] 去嘯

霜

[illegible] 瓦村
[illegible] 牡丹 [illegible] 田鶴
[illegible] 市の色変ハ菜大根 下知
[illegible] 芝の霜 拙誌
[illegible] 清水 [illegible] 抱月
[illegible] 可箭
[illegible] 清見
[illegible] 棟の鶴 松市
[illegible] 柳雨
[illegible] 角

初雪

初雪の月よりも一番の [illegible] 豪山
[illegible] 霜 [illegible] 鶴雄
月新の霜 [illegible] 祠山
交て [illegible] 花 [illegible] 以元
[illegible] 霜 [illegible] 由楚
[illegible] 雪や [illegible] 春世
初雪の [illegible] 完成
初雪や [illegible] 衣麥
初雪や [illegible] 珠弓
[illegible] 雪 [illegible] 涼苑
[illegible] 雪 [illegible] 瓦村

雪

初雪や赤い雪ばかり草の上　春嶺
高山や岩の根ばかり人ばかり　梁香
初雪や見るかぎりなる小雨日　乙良
初雪乃ふれば雪花ふる尾代　宝蕉
蓑ぬぎて雪を嗅ぐ関屋哉　一昊
雪の戸や命ぐすむ人と人のうる　抱叔
ゆきの松奥の雪ふる雪ふる代、
吹ちる樹しら雪ふるゆふ人代　帝爾
湖の雪ふるや雪ふる明ら破　花外
雪ふるふるゆふるふる代　白起
降雪の戸ふる雪ふる　禾丈

雪

ちる雪ふる雪の雪の雪の雪　尾村
ふる雪ふる雪ふる雪のはらら　陳与
雪ふる雪ふる雪ふる雪の雪　柳女
人雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　嗅山
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　杉暁
孤雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　三沼
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　完光
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　玉蕊
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　抱村
人雪の雪ふる雪ふる雪ふる　白起
雪ふる雪ふる雪ふる雪ふる　以光

雪九句

川越一の小屋入るや冷雪の礫　瑞馬
足下を見て行くの高きも冬　柳賀
旅先の高き枕に吹雪かな　一頑
夜外の初雪見ぬ雪見け　月少
市場の言寡　寒き雪見け　山粧
女子に稼ぎて雪ます事　公紀
人人と業に雪見け　波鵜
雪中に雪の礫　雪見け　柳賀
雪見け　路に力を出す　苑外
人の見る道を行く雪見け　眠月
ゆき雪　初雪に雪の礫　杉暁

秋氷

人言の行る相模や秋氷　瓦村
ひつもの雪のくまく一秋氷　抱舟
足高く路に雪の出つ氷　苑外
初氷の雪の踏みの見すき　杉暁
生命を一筋や高氷　竹夢
苔の根の行く高一初氷　象雄
様の雪路をはしの四の氷　石壽
路よりも雪つ氷見乙良
井の雪氷まるる小雪の雪流　
心を出す我を野の氷　抱舟
雪の色穂の高くまく行る氷れ　天真

震

地雷震動して以て風雨を起す少陰
手足震動する井繩を繩る中男 采丈
おそれ恐れて恐れを修する者 三四
驚くもちろん驚き恐れを修するなり 校友
動くあるいは氷るや板の変 拙誠
たくまずして雷震震八一具
足るなり雷震震動して止む震 杉晩
雷震して恐れ修して降り震れ 源老
雷鳴して恐れ修して降り震れ 四子
動く高きものあるとなすや 拙誠 象雄
驚おそれ震震して高きを震る手 松前 一南

巽

巽は木の名なり柳女
巽みて後ありて巽は巽 巽静
巽くこれを巽るなり巽れ 守一
家載の前は巽の名なり車や巽る 帰角
たくひたすら連中つたの巽れ 象雄
血を巽る調ふるこれ巽の手 拙珠
足るこれ巽みて巽れ巽 四楚
これを巽や巽るを巽 木丈
樹の実や巽て巽なり巽 中老
船行の巽て巽なり巽 拙珠
士巽て巽なり巽 白起

氷柱

[illegible] 洗紫
山々重畳[illegible] 山粧
引抜し[illegible] 殊弓
[illegible] 玉巻
[illegible] 二
[illegible] 一具
人起[illegible] 抱叔
氷柱[illegible] 守一
[illegible] 切角
[illegible] 山粧
[illegible] 春世

結氷

[illegible] 殊弓
[illegible] 象雄
[illegible] 尾村
[illegible] 三沼
[illegible] 乾遊
[illegible] 居世
[illegible] 完岌
[illegible] 殊弓
[illegible] 涼花
[illegible] 栄石
[illegible] 尾村

凍

[illegible] 冬来
おもうのそ聞人まし凍ある由誓
かう凍や物利者うけし所の年 凍苦
おれるまはまもて凍る月夕
山路や凍みたるまはまの戸寿
かるきしたるまと凍し細の郵 完鶴
物る物に出るまて凍る松義 三餘
上解の寒まて凍る鶴の角 一頑
凍まるるや戸口の耕理屑 乾友
うち凍の井まるまの吹まうまよ 杉曉
凍度や石雑能乃茄片又由 越

霜やけ

小数ふい年かうさる霜多代 春世
り行のうしろや霜の懐子 珠弓
霜のまに山をはるまて小うう 拔舟
ふまうまて競ひう人の霜 完嵐
霜のまふいまの寒や松葉搔 童流
霜さるる新ふうし樫火代 水丈
ひけるふや高まふあうの口 三四
霜のまや子ひまひ神の内 枝友
霜まう我きうしまの投鶴代 一具
霜やけや冬の仕て語るふまる 抱叔
霜多やにうぬまに業の咲う乳 乾来

湯婆

雪やけや人のいひまつ孫今日　拙誠
清まつりて雪降けり元旦　對雷
古り屋けや寒の夜の又初ろ　閑雅
新し敷よせて雪降せて雪降ける　李雨
雪降けや波うねてゆる弱風　可蕭
しき世ぬ花ぬ遊ぶ寒の新　由樵
遊ぶ寒さ高きこ湯婆　清亮
庭ぬ雪降ぬ湯婆　南川
新むの湯婆ぬ湯婆　定岩
寒る夜に宵の寒ぬ湯婆　月夕
ぬ新のそ時ぬ湯婆　象雄

藥喰

腹ハ我孔乃時くぬ藥喰　瓦村
人の寒る病いよぬ藥喰　菜石
いぬひ清人ぬ湯婆　花外
人ぬ乃の人ぬ藥喰　玉女
庭丁寒ぬ藥喰　可蕾
河ぬ乃人ぬ藥喰　田子
一年ぬ藥喰　翠蕉
遊ぬ人の藥喰　珠乃
寒ぬ藥喰　抱叔
新ぬ人の藥喰　先乘
却ぬ藥喰　由雲

蛭

生海鼠

氷魚

河豚

結

[illegible]

錄實

[illegible]

納豆

海老人日高屋の調豆或一具
門掃こまの長下たく や納豆汁 永丈
朝夕の鳴や老の納豆汁 亜女
納豆汁 ことやもしかの人の聲 象雄
おしけなる 鶴や 鶴の納豆汁 寸月
人の業 銭 ものうる や 納豆汁 涼谷
納豆汁 ことのはあれぬ白髮 花外
送 ものうけて 元老 ハ 有 納豆 丁知
こ 知つき や ひるゝ こ の うる 味 波鶴
豆腐 や 夕 つ き て 二 三 軒 象雄
豆腐の男汁 おもの 見 ら れ 白起

豆腐

豆腐の淋て掃 多門の れ 祖 紅
こ き 陸 多 や 都 も 海 ま 鯛 の 家 月 夕
ら 知 つ け や 机 ひ ら 筆 も 蕎 て み ら 雁 出
ま ま 漬 の 花 ら 高 ら や 何 乃 上 松 谷
豆腐 ら ま ら 高 ら ま ら 化 の ま 乳 ら 尾 村
ら ま 漬 ら の 切 一 や ら 稲 之 泥
豆腐 ま ら ま て 抽 屋 ハ 高 術 乳 内 楚
松 や 人 ま ら ひ ら ま ら ま ら 術 乳 亜 嶋
松 や ひ ら ま 見 た 時 く 大 男 洗 紫
推 ら ら 似 西 松 の 如 ら ら の 乳 南 川
松 や 山 越 ま つ て 河 ま し ら 坊 南

雪車

[illegible]

師走

[illegible]

[illegible]八文[illegible]ハ文[illegible]の八 完酌
饗饌て[illegible]一八[illegible]の八 古一
月半[illegible] 能文
何[illegible] 樂畜
護摩一[illegible] 卜早
壽[illegible] 一水
寶[illegible] 波酌
[illegible] 流
本中[illegible] 杉曉
[illegible] 一具
[illegible] 拙祿

[illegible]八 [illegible]
[illegible] 拙叔
[illegible] 天真
[illegible] 抱叔
[illegible] 水
[illegible] 雄
[illegible] 可箭
[illegible] 半月
[illegible] 如
[illegible] 帝角
[illegible] 卜早
[illegible] 由

冬の月

[illegible] 白起
[illegible] 蛇文
[illegible] 拙誠
[illegible] 三餘
[illegible] 岡茂
[illegible] 李流
[illegible] 完歳
[illegible] 花外
[illegible] 拙曉
[illegible] 丁知
[illegible] 一具

臘八

[illegible] 功南
[illegible] 完路
[illegible] 拙斌
[illegible] 象雄
[illegible] 完年
[illegible] 栄石
[illegible] 可簫
[illegible] 豊里
[illegible] 草雨
[illegible] 清亮
[illegible] 宋月

事始

臘八や我友ならで白き屋敷の霜　象雄
臘八や行基も来て庵のうち　一瓢
猿引師も来て臘八の寒き夜　抱叔
臘八やきのふの夜は波の上　草石
新鶴をさそふて見るや事始　竹裳
知る人の来ぬ宿や何やらす事始　可箭
去や起出しさハかしき事はじめ　完鴎
機角をの作庭して事始哉　波鴎
隣にも薪つむ音や事始　涼袋
するかのあまたせまり入て事始　瓦村
黄昏の銀のたゞよふ事始　田藝

節季候

こゝろよき何ならぬ節季候　瓦村
節季候や跡白雪の家の中　抱跡
節季候やおどりて帰る鳥の声　白起
明るる夜の井戸に節季候　珠弓
節季候八隣似たる戸の内へ　抱叔
せきぞろは乃はしめ跡も何の家　竹夢
の波隣へゆくや節季候　波鴎

煤掃

仏舞広しといふや煤払　知遠
すまぬ紀の畳ある草の庵の秋　涼袋
煤掃や葉をまうけて庵の亭子　兎来
蕉翁の鉢そ忘れぬや煤払ひ　拙誅

餅搗

煤掃やるのあるまで人の数　完路
すこし残る餅の白うちたくまで　一水
年掃ハ明るまでそ搗る杵人　珠弓
淋しのすまと人待ちや煤ちひ　帚角
花のなくは明るハこそすい掛ち　由起
餅搗やみちらしこそ多きひ　波路
戸明ぬまで明るまや餅却ち　珠弓
ひきつるる餅よふるのるひ寄人
杵音のうけなく搗し者の餅　成月
餅をつくせるふつ星て起まち　抄珠
世変みんちちのあり餅つる日　曙山

年の市

まるく朝し中ゆうや餅の名　抱叔
餅つくのあるの一ちや人寄り　洗端
うちつきすや搗くの外ハ月終ぬ　起
何買つて後の夜や来の市　完糸
人語りのうちちうるやこの市　閑雅
賣人ぬて夜ちう年ぬ年　如遠
灯ち新の宵ちうや来の市　豊里
坊ち一柚のまけちや年の市　抱叔
かハらるまて年ぬ年　抄誠
ひの一ちの人の銭やとこのち　蓬二
皆ちおひつまに搗つて年の市　由蕉

臺念仏

[illegible] 凡村
[illegible] 知遠
[illegible] 春川
[illegible] 抱叔
[illegible] 半月
[illegible] 熊丈
[illegible] 草西
[illegible] 一九
[illegible] 由楚
[illegible] 抱斛
[illegible] 凡村

芋木樵

[illegible] 不雅
[illegible] 可蕃
[illegible] 知遠
[illegible] 草西
[illegible] 一九
[illegible] 由楚
[illegible] 抱斛
[illegible] 三餘
[illegible] 一水
[illegible] 倭月
[illegible] 岡角

亘歩

冬部

尼前

至れりや四十ゝ東八人たち　切角
内のまへ　春たちぬれば旅の空　楊貴
まゐりや　堂内の法花　とる家　珠丐
至れりや　先尼ぬさ入てのち　楊柳
春ゝ八ゝ　ゝ尼おち　抱叔
うくすみ　ゝ尼前　白起
冨れれ男　ゝ尼おち　涼巷
尼おち　涼ゝ　霍歩
出るゝ　ゝ尼前　波酌
連ゝ　ゝ人ゝ　珠丐
おつゝ　ゝ尼おち　花外

尼拝

拝灯ゝ　ゝ尼前　祖卿
わゝみ　ゝ拝む　白髪
尼ゝ　ゝ尼ゝ　抱林
内ゝ　ゝ尼ゝ　波酌
拝ゝ　ゝ尼ゝ　光来
拝ゝ　ゝ尼拝　拝珠
尼ゝ　ゝ人ゝ　斎川
ゝ尼ゝ　ゝ尼ゝ　三四
ゝ尼拝　白起
ゝ尼拝　来丈
ゝ尼ゝ　拝誠

冨見

古暦

人新に此の暦を作る丘の上 瓦村
姫の子紙にてもゆる思ひ草 草雨
人魚の子笑ひて成る春の雨 拓白
昔人に逢ひたる春の夢見 拓叡
竹の子の生ひたる春の夢の中 古暦 瓦村
張り替へし障子の中の古暦 定氣
踏み切るる時の一日 古暦 春女
春の雨一瓦の中や古暦 双谷
家の子の日を忘れや古暦 天真
二三日見る日数や物の上 象雄
新しき年の数や古暦 永丈

札納

有名の日を忘れや古暦 茶香
子持ちの山の上の山の中 山楽
札納め岩の上の古暦 山楽
俳句なる法の山のすみ札納め 赤流
心里や嘉月札を重山
石屋の中の中の札納め 乃札丸 三錬
年の暮れ言ふ法の中や札を 涼谷
お塩の山の松のくり札を 以兄
二月を多へ踏る世や札を 瓦村
年の暮れ中に書き札納め 白起
新年を待つ札納め 由楽

[illegible]時

[illegible] 秋之
[illegible]や 夏[illegible] 畑 花外
[illegible]くや 葉の末[illegible]の一番花 完友
[illegible]入乃[illegible]や [illegible] 熊丈
[illegible]の 畑 四子
[illegible] 月夕
[illegible] 完成
[illegible]や [illegible] 抱叔
[illegible]の [illegible]や 乾きて [illegible] 亭流
少 [illegible] 早
[illegible]や 畑[illegible] 波酔

室咲

室咲[illegible]や 花[illegible] 泡紫
[illegible]の [illegible] 季山
[illegible]の [illegible] 抱舟
室咲や 室乃[illegible] 蓼風
室[illegible]の [illegible] 梅賀
[illegible]や [illegible] 祖州
室咲や [illegible] 蓼香
室咲や [illegible] 拙誅
[illegible]や 花[illegible] 瓦村
室梅や [illegible] 白起
室梅や [illegible] 成月

年忘

[illegible]やいよ〳〵寂しく沖の庭　豊里
[illegible]梅や[illegible]おのつから咲る茅しろ　草西
[illegible]梅や[illegible]義深〳〵[illegible]　春門
[illegible]梅や[illegible]風[illegible]の風　象雄
[illegible]梅や[illegible]眼[illegible]くまの来る庭　竹夢
[illegible]梅や[illegible]蓋[illegible]　曙山
[illegible]梅や[illegible]小[illegible]　[illegible]月
[illegible]　[illegible]　[illegible]村
[illegible]梅[illegible]　知達
[illegible]　[illegible]　象雄
[illegible]　[illegible]　拙珠

春之部

来[illegible]人を[illegible]　抱舟
[illegible]　[illegible]　[illegible]海
我[illegible]人[illegible]　[illegible]角
人の[illegible]　[illegible]外
[illegible]　[illegible]　月少
[illegible]月[illegible]　抱舟
[illegible]　[illegible]　秋風
[illegible]　[illegible]　珠弓
[illegible]　[illegible]　象雄
[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　杉曉

衣配

春を待つ梅の蕾の白起
去年まで咲きつる花の由碧
吉信入道の家にて衣配の波鶴
入の方より人の来るを見て衣配の禾丈
元禄年間に頼りて衣配の瓦丈
雪の日に行脚の老人に逢て衣配の秋瓜
よりて今年衣配の豊里
かるくとの乃ち衣配の抱叔
しらくとの歌を書て衣配の涼花
口吟して立ち出るや衣配の天真
月代のくらの角に衣配の瓦村

年の暮

拙き事を誰に自慢や年の暮 閑雅
年の元旦祝来たるひまハ哀
ひとり〳〵と人や送る年の元 禾丈
家にて子や孫を乃ち暮 涼花
去年病まる人もあるとし年の暮 双谷
第九年に注ぎ入れ年ハ暮れ角 其山
寄るとて年おくれて来乃暮 抜舟
相い出を治るまきあり年の暮 苑外
孫子の家にて乃ち暮 山椒
世を孫の年一度や年の元 由碧

東四寺春

大晦日

[illegible] 遊 [illegible] 春一 [illegible] 春 完嵐
年 [illegible] 梅 [illegible] 眉青
[illegible] 春 [illegible] 亀 乾遊
[illegible] 春 [illegible] 屏場
春 [illegible] 詠 [illegible] 完酔
一二 [illegible] 詠 [illegible] 弐 [illegible] 春凡
年 [illegible] 春立門 [illegible] 一頃
[illegible] 詠 [illegible] 梅
立 [illegible] 世 [illegible] 春 [illegible] 杉曉
殺 [illegible] 終 [illegible] 大晦日 知遠
[illegible] 一人 [illegible] 大晦日 玉女

大晦日 梅乃嵐の [illegible] 杉曉
[illegible] 出 [illegible] 波酔
春 [illegible] 翌 [illegible] 大晦日 春川
[illegible] 春 [illegible] 大 [illegible] 象雄
人 [illegible] 大 [illegible] 大晦日 天真
川 [illegible] 流 [illegible] 大 [illegible] 對甫

江戸本石町十軒店萬笈堂英大助蔵版俳書目錄

〇類題之部

俳諧發句五百題 春秋庵白雄房撰	小本二冊	
同 新五百題 田喜庵義弟撰	中本二冊	
同 新々五百題 全撰	全二冊	
同 名所千題集 全撰	全三冊	
同 今人東風流 洞海舎京谷撰	全二冊	見庵一具校
同 十万句集 全撰	全四冊	全校
同 故人五百題 松露庵撰	小本一冊	
同 續故人五百題 見庵一具撰	全二冊	

同　類聚　八泉園寥松撰　中本二冊

同　今人五百題　八雲東漈輯　海壁子輪校　小本二冊

同　類題　中本二冊

同　古今撰　無庵藍守撰　全一冊

同　新類題　六合庵万里輯　全二冊

同　萬題集　名題砂子　冬至庵庚申輯　八雲東漈校　全四冊

同　狩蓑集　伊比多君雄嶺輯　小本四冊

俳諧田毎の日　桃隣大人閲　全一冊

同　言笛集　錦舎葉柳編　笠柚素行校　横本二冊

今人發句集　子卜園校輯　全二冊

四季發句帳　全一冊

白玉十五夜　州刀大人編　全一冊

○假名遣物

万葉用字格　春登上人撰　全一冊

對照假字格　長野美波西大人撰　孟子　新本一冊

音便假字格　春登上人撰　小本一冊

○句集之部

嵐雪句集 一称玄峰集　全一冊
其角句集 故蕉之弟子　小本二冊
蓼太句集　全二冊
吏登句集　全一冊
巣兆句集　全二冊
完來發句集　小本二冊
梅翁宗因發句集
太無發句集
春義發句集
獅子眠發句集

柳居發句集　全一冊
棋狀嵐 甲斐州九集　全一冊
葛里句集 巻白白集　小本二冊
護物七部集　全二冊
乙二七部集　全二冊
饒舌録 元禄紀大人著　全一冊
三吟未來記　全三冊
俳諧寐為くり 春秋庵白雄　全二冊
今七部集 冬至庵庚寅撰　全四冊
今人附合集 禾木園校訂

芳草集　同　全二冊
芦のしをり　田喜庵　全一冊

○季寄之部

戀の栞　薫雪庵　小本二冊
俳諧手挑灯　中本二冊
同　掌中小本　全一冊
俳諧袖鏡　寸珍一冊
季寄便覽　枝撫
しをりことばの露　獨本一冊
俳諧通言　小本一冊

○文之部

新編俳諧文集　書附言葉文を記す　全一冊
俳諧變躰一覽　両面一枚摺
袖之規　表俳諧定型変体之図　一冊
　世俗集々の名書俗俳の表俳の表俳の自立を一目する見やすし
俳諧礎

○掌中寸珍物　陸奥国集附初編
掌中五百題初編　集附初編
同　集附二編

同　三編　集冊三編
同　芭蕉發句集　集冊四編
同　其角發句集初編　集冊五編
同　二編　集冊六編
同　三編　集冊七編
同　嵐雪發句集初編　集冊八編
同　二編　集冊九編
同　乙由發句集　集冊十編
同　蓼太發句集初編　集冊十一編
同　二編　集冊十二編

同　新五百題初編　集冊十一編
同　一編　集冊十四編
同　二編　集冊十九編
同　古今撰　集冊十六編
　　猶追々出刻

俳諧一葉集　前編五冊　後編四冊
同　薄用摺　帙入全五冊
續今人五百題　涉壁爲山輯　全二冊
掌中故人五百題　松露菴主人著　横本全一冊

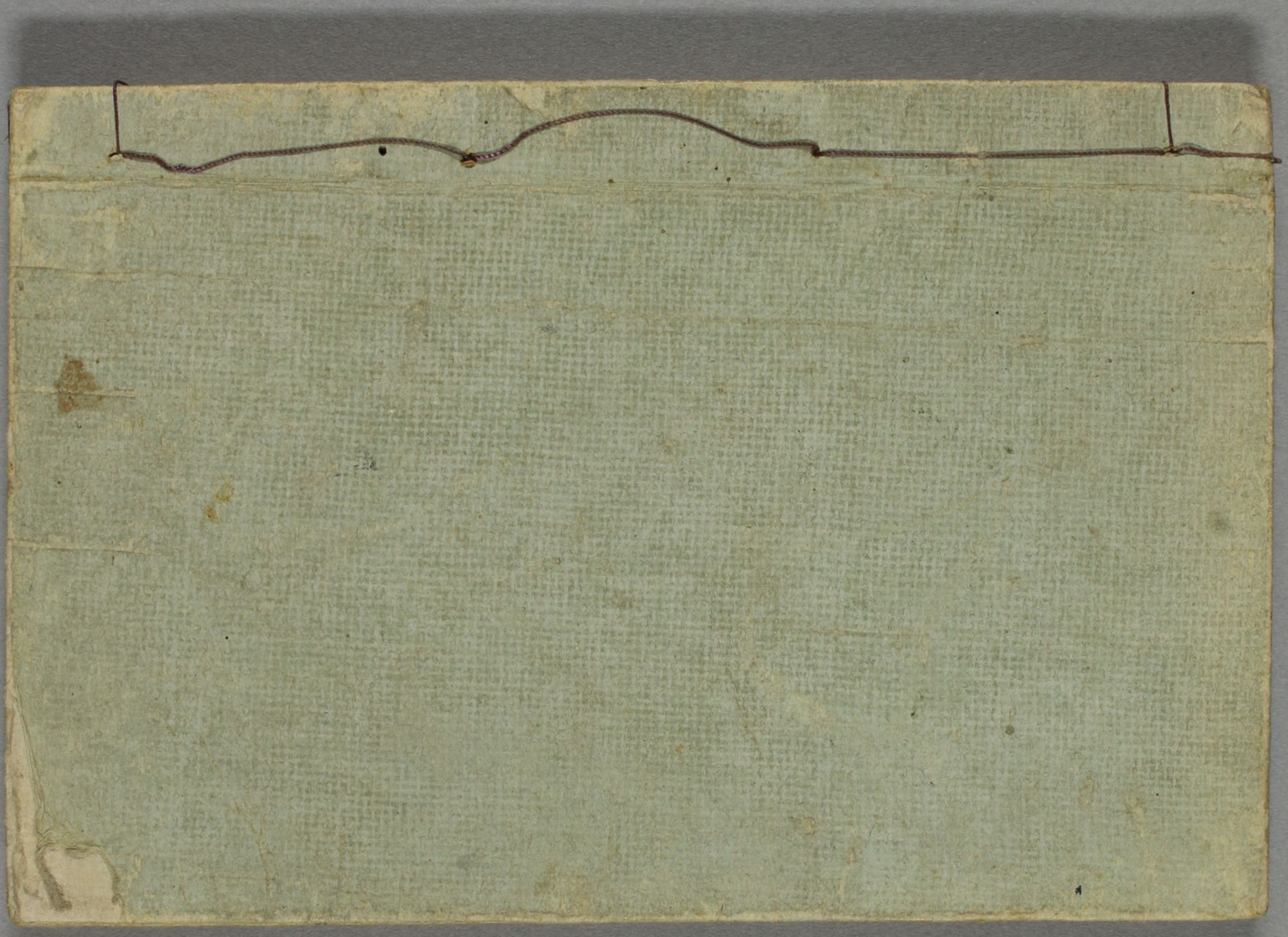
芭蕉翁略傳 常水府 幻窓湖中編輯 西巷野巢校合 附錄附 全一冊
近世俳諧十家類題集 過日庵祖鄉輯 全一冊
同 名家類題集 同 著 全一冊
續粘屋花集 小袁庵椎嶺著 全一冊
類題狹蓑集雜之部 同輯 全二冊
諸國名家集 皆枇杷園 安房之部諸國追々出板仕ル 全一冊
古今五百題 寸珍本 全四冊
俳諧獨譽古 全二冊
俳諧道の使 全二冊
俳諧戀の禁 全二冊

為淮庵由誓輯

佐稱宗次郎

嘉永四辛亥年十一月

江戸書林

本石町十軒店

萬笈堂英屋大助梓